2015 新春座談会　～子育て先進都市を目指して～

子育て、親育ち、まちづくり

現在、須山地区の母親クラブ「つくしんぼ」の会長を務める。５年前に山梨県富士吉田市から須山に嫁ぐ。４歳と２歳の男の子の母。夫と両親の６人暮らし。座談会では、子育て奮闘中の母親や母親クラブの代表として、また、市外出身者の視点から語る。

根上 美保

現在、市教育振興基本計画検討委員、市子ども子育て会議委員、静岡家庭裁判所沼津支部調停委員などを務める。３人の子どもは既に独立。孫は４人。御宿坂上の自宅で夫と２人暮らし。元市教育委員長。座談会では子育て経験者の視点や教育関係者の立場から語る。

勝又 美代子

三ツ石 純子

現在、南小学校区スクールコーディネーターや市都市計画マスタープラン策定市民委員会委員などを務める。伊豆島田で夫と両親、中学３年生と１年生の６人暮らし。元小学校低学年支援員。座談会ではベテランママの立場から、また様々なボランティアの経験から語る。

髙村 謙二 裾野市長

任期１年目の昨年、３回の補正予算を組んで教育や子育て支援策を推進する。全国に「あの、子育てで有名な裾野市」と自信を持ってＰＲできる子育て先進都市を目指す。子どもは 24・22・18 歳の３人で、子育ても終盤戦を迎える。久根で両親と妻、長男との５人暮らし。

（敬称略・順不同）

平成 26 年 11 月 19 日㈬ 市生涯学習センター

平成 20 ～ 24 年の当市の合計特殊出生率は 1.82 で、長泉町と並んで県下第１位です。また、この５年間の上昇率は 0.2 ポイントで県下第１位の伸びとなっています。市ではこの強みを生かし、一層の子育て支援策の充実を図り、定住促進につなげるため、庁内に推進本部やプロジェクトチームを設置し、裾野市少子化対策強化基本計画の策定を進めています。今年の新春座談会では子育て先進都市を目指すために、「子育て、親育ち、まちづくり」と題し、子育てからまちづくりに対する想いを熱く語り合います。

子どもたちの成長に寄り添うことで親自身が成長できる

市長▶まずは皆さんの子育て体験をお話ください。

根上▶須山地区の母親クラブ代表の根上です。4歳と2歳の男の子の母で、子育てを始めたばかりです。夫と夫の両親と6人で同居しています。私は里帰り出産をしませんでした。実家の近くには産める病院が少なくて予約が難しいことと、須山の家族が協力的なので、裾野で生むことにしました。出産後に2週間だけ帰りましたが、すぐに戻ってきました。

市長▶須山にすっかりなじんでいますね。

根上▶須山は本当に住みやすいところです。子どもを幼稚園へ歩いて送る途中、おじいちゃんおばあちゃんが「どこの嫁だ？」って声を掛けてくるので、すぐに顔見知りになりました。須山には人と人とのつながりが残っています。特に子どもを産んでから、人のつながりの心地よさや安心感がわかるようになりました。

市長▶すぐに溶け込んでいける仕組みがあったのはよかったですね。

根上▶同居なので母が発信してくれたのがよかったと思います。「うちの嫁だよ」って。ポンと入っていくことができました。

市長▶しかし、ポンと入っていくことができない人もたくさんいますので、そのために母親クラブなどの仕組みを上手に利用していただければありがたいです。三ツ石さんは根上さんよりは少し先輩ママで、ボランティア経験も豊富ですよね。

三ツ石▶ボランティアを掛け持ちでやっているため、仕事をやめざるをえなくなりました（笑）。私は伊豆島田で夫と夫の両親、中3男子と中1女子の6人で暮しています。昨年まで小学校低学年支援員をしていましたが、現在は、夫に1馬力でがんばってもらっています。私が夜の会議に出掛けるときも、家族が気持ちよく送り出してくれるのでありがたいと思っています。

市長▶伊豆島田はこの10年で大きく変わりましたね。

三ツ石▶昔は伊豆島田の友達のうちへ遊びに行くとき、あぜ道を通って近道をしたものです。今は、お店や医院がたくさんできて、車がなくても生活できるところになりました。その反面、交通量も増え、子どもたちの通学路の安全など、心配な点もあります。

市長▶勝又さんはどんな子育てをしましたか？

勝又▶はい、子どもが3人いまして、1人は海外、2人は首都圏に住んでいます。今は主人と二人暮らしです。私はかつて英語塾を開いていたため、夕方から寝るまでの時間、自分の子どもたちにはほとんど関わることができませんでした。実の両親が同じ敷地内に住んでいましたので、よく助けてもらいました。今、振り返ると、十分に心を尽くせなかったという思いが強いです。その当時はバタバタしていて実感しなかったことですが、子どもたちが巣立った今になって、子育て時代の素晴らしさをしみじみと感じています。子育てを通して様々な貴重な出会いがありました。それが私の大きな宝物となっています。素晴らしい人たちに出会えたことや、今の生き方、考え方などもそう。子どもたちの成長に寄り添うことで、自分自身も成長できたように感じています。

県内市町の合計特殊出生率※（平成20～24年：厚生労働省）

【合計特殊出生率上位５市町】

順位	市町名	出生率	前回調査15～19	
			順位	出生率
1位	裾野市	1.82	4位	1.62
〃	長泉町	1.82	1位	1.70
3位	袋井市	1.76	7位	1.60
4位	河津町	1.75	2位	1.66
5位	吉田町	1.73	7位	1.60

【上昇率上位５市町】

順位	市町名	出生率
1位	裾野市	0.20
2位	川根本町	0.18
3位	袋井市	0.16
4位	清水町	0.13
4位	吉田町	0.13

※1人の女性が生涯に何人の子どもを産むかを表す数値。 15～49歳の女性の年齢別出生率を合計したもの。合計特殊出生率がおよそ2.07のとき、人口は増加も減少もしない。

市長▶さすがに子育ての先輩のお言葉です。今度は私の番ですが、子どもは３人いまして、24歳、22歳、18歳の３人で、子育ても終盤戦になりました。親と同居で、両親と私ども夫婦と長男との５人暮らしです。子育ては親育て、親育ちという意味もあると思います。私が今、市長であるのは、子育ての最初の段階から、ＰＴＡなどの活動に携わってきたからだと思います。そのときお断りをしていたら、今はなかったと思います（笑）。子どもの成長と共にいろいろな役をさせていただきました。お母さんに子育てを任せきりにしないで、お父さんも楽しみながら参加すれば、自分のためにもなると感じています。

母親クラブが５つもあるのは当市だけ。息の長い活動に！

市長▶三ツ石さん、10年前と今とでは、子育て環境にどんな違いがありますか？

三ツ石▶北児童館ができて、市内２つの児童館活動が活発になったことがあります。母親クラブの行事も、お母さん方が個々にSNS（ソーシャル・ネットワーキング・サービス）を利用し、以前に比べて個々の情報発信が活発にされていると思います。児童館へ行くとお母さん同士がスマホの写真を見せ合う姿をよく見掛けます。10年前には見られなかった光景です。昔は今みたいにスマホがないですから、何かしようにも音頭取りが大変でした。ただ、便利になった反面、一歩踏み外すと、危うい関係になってしまうこともあります。

市長▶根上さん、母親クラブに入ってよかったことは？

根上▶上の子が１歳のときから母親クラブに入っているので、幼稚園に入る前に人間関係ができていたのは助かりました。先輩方に幼稚園に入る前の準備を聞くことができたので、安心して入園させることができました。逆に、母親クラブに入っていなかったお母さんはすごく不安で、入園したときには既に知り合い同士でまとまっていて、孤立して辛かったという話を聞きました。まとまることも必要ですが、外に対して開いていくことも大切だと感じました。

裾野市内の母親クラブ

クラブ名	対象地区	主な活動内容
やんちゃりか	全地区	バス研修・野外活動・各種教室など
マザーグースうさぎ	深良・富岡・須山	交流会・施設見学・野外活動・各種教室など
マザーグースぱんだ	東・西	遠足・芋ほり・工場見学・各種教室など
須山つくしんぼ	主に須山・呼子・下和田	工作遊び・ちびっこ広場・野外活動・各種教室など
カンガルー子育てネット	東	マス釣り大会・もちつき・ウォークラリーなど

市長▶なるほど。どうしても活動が活発になると、つながりが強くなる分、ついつい外部の方が溶け込みにくい雰囲気が出てきます。勇気をもって行ってみたら楽しかったというようなオープンな雰囲気づくりを考えてもらえたらありがたいですね。年度途中でも入っていけるようにすることが大切です。

根上▶北児童館とのつながりができたことも、母親クラブに入ってよかった点です。北児童館には子育ての相談をする場所があってありがたいです。

市長▶今年度、少子化対策強化事業の一つとして、児童館や支援センターの相談員を増員し、強化を図りました。

根上▶須山では、小さい子をもつお母さんのほとんどが母親クラブに入っています。もし、入っていなければ、こちらから声を掛けて勧誘しようと思っています。

勝又▶市外から転勤してきたお母さん方は、まちに不慣れで不安ですので、背中を押してくださる人がいると助かりますよね。

市長▶いい意味でお節介を焼いてくれる人…。実は、数年前に県の補助金がなくなり、県内の母親クラブの多くは衰退してしまいました。市単独事業で補助していることもありますが、母親クラブが５つもあるのは裾野市だけですよ。もう、これは裾野市の誇りです。お母さん方の情報交換の場であったり、息抜きの場であったり、お節介を焼く場であったり、少子化対策の大切な仕組みであると思います。お母さん方の悩みを、仲間でフォローし合うことができるところが素晴らしいと思います。この母親クラブの活動を、もっとＰＲ

する必要があると思います。根上さん、母親クラブの活動で、何か困ったことはありますか？

根上▶役員決めは大変です。メールでやれば簡単ですが、メールだと伝わらない部分や、変に伝わってしまう点もありますので、直接お会いして伝えなければならないと思います。役員ばかりが大変になるのではなく、みんなで協力して進めていくことが大切であると思います。

三ツ石▶忙しいから参加できない、役員の引き受け手がいないなどの理由で活動が衰退してしまうのは残念なことです。母親クラブを息の長い活動にしてもらいたいですね。

市長▶人とのおつきあいには面倒くさいところがありますが、面倒くさいことを受け入れながら暮らしていくことが大切だと思います。面倒くささを排除しないで、面倒くささを生きる社会、人づくりは何かと面倒なものです。面倒くさいことの中には、意外と面白いことがあると思います。

感性の鋭い子どもたちに「ほんもの」とふれあう教育を！

勝又▶私もそうでしたが、本日出席の皆さんは両親と同居で、恵まれていると思います。子どもたちにとって、祖父母を通じて多様な価値観や生活習慣の違いを知り、老いるとこうなるのだということを感じることが、目に見えない教育になっていると思います。また、核家族では子どもの逃げ場がなくなってしまうことがあります。両親の思いを一身に引き受けることになるため、子どもがどう消化したらいいか分からなくなってしまうことがあります。少子化のため、親の目が届き過ぎて、かえってだめになってしまうこともあるのです。核家族化が進む中で、行き詰まっているお母さんや子どもたちが多いことも確かです。子どもたちのケアを社会全体で引き受けなければならない時代になってきたと思うのです。

三ツ石▶子どもを生むことは女性にしかできないことですし、その延長で子育ても女性中心になりがちです。育児休業制度を充実させるなど、男女が協力して子育てをすることが当たり前になればいいと思います。

勝又▶今年度、地域少子化対策強化交付金を用いてスタートした事業に、中学生を対象にした「みらいのパパ・ママスクール」というのがあります。こういう講座の中で、親になることの大切さを伝え続けていくことはいいことだと思います。

幼児を対象とした外国文化ふれあい事業

市長▶補正予算を組んで子育て支援や応援、教育施策を行ってきましたが、「三つ子の魂百まで」と言うように、私は早いうちに本物に触れることが大切だと考えています。幼児を対象とした外国文化とのふれあい事業や、小中学校の「ほんもの」とふれあう学習事業などです。私はできるだけ面倒くささを残す市政、アナログ感覚を大切にする市政をやろうと思っています。その根本が人づくりです。皆さんのように面倒くささがわかる人が増えるまちづくりをしていきたいと考えています。面倒くささを楽しめるようになれば素晴らしいと思います。

勝又▶おっしゃるとおり、市長が進める「ほんもの」と触れ合う教育は、なかなか素晴らしい視点だと感じています。子どもの感性はものすごく鋭いですから、第一線で活躍する人に間近に接することで、将来の夢が実現するきっかけになるかもしれません。人間力が養われることにもなります。幼児のＡＬＴについても、単に英語の単語を覚えるというより、自分たちと異なる生活習慣や文化があることを直接肌で感じ取ることが大切なのではないでしょうか？

根上▶将来の職業を考えたとき、私たちの頃は女の子だったら看護師、男の子ならパイロットというように、限られた職業しか発想できませんでした。学校でいろんな仕事があることに目を向けさせてくれることは、親としてありがたいことです。

三ツ石▶生で見ることは貴重な体験ですね。100 聞くより１回見ることが大事ですね。短期的な成果を求めずに、長い目で見ていくことが大切です。

市長▶そのとおりだと思います。人を一生の単位で長い目で見ていくことが大切です。

商店街で裾野版キッザニア、仕事をすれば「100すそのん」

市長▶ほかにも当市にとって、こんな施策があったらいいなという子育て応援策があったら教えてください。
三ツ石▶いっぱいありますよ（笑）。まず、病児保育を充実させて欲しいですね。子どもが病気をしても休める方ばかりではないので、熱を出したとき預かってくれるところがあると助かります。
市長▶議会の一般質問のようですね（笑）。本当は、社会のシステムとして、そんなときくらいはきちんと休めるようにしなければいけないと思います。
根上▶子どもが走り回れる公園が欲しいですね。
三ツ石▶公園があってもボール遊びができないなどの制約もあります。自由にのびのびと遊べる公園が欲しいですね。あとは、安い有償ボランティアができないかなと思います。時間300円くらいで、子育てに限らず、介護でも。高齢者雇用にもつながりますし。
根上▶地域通貨や商品券を発行しても面白い。
市長▶応援しますよ、起業しませんか？（笑）
三ツ石▶そう、キッザニアの裾野市バージョンなんかも面白いですね。商店街をキッザニアにして、まさに本物の職業体験です。
根上▶いいですね。
市長▶年に1回はやってくださいよ。
三ツ石▶子どもの働く姿を親が見に来て、商店街の活性化にもつながると思います。キッザニアで働けば、「すそのんマネー」が支給されるなんてどうでしょう？
市長▶はい、きみはがんばったから「100すそのん」です（笑）。
三ツ石▶商店街で縁日をやって、すそのん通貨で遊べるというのもおもしろいですね。
市長▶ぜひ実現してください。
根上▶私は子どもを地域で育てたかったので、幼稚園を選びました。須山には保育園がありません。離れた保育園へ行ってしまうと、須山の運動会へ出られないという寂しさもあります。短時間だけ働きたいお母さんもいますので、保育園と幼稚園の融合した地域密着型のこども園があればいいなと考えることがあります。
市長▶須山にも保育園のニーズがあるのですね。
根上▶ありますね、保育園がいいわというお母さんも結構います。
勝又▶教育行政に携わった経験から、裾野市はこれまで結構いいことをやってきたと思います。他に先んじて子どもの医療費を無料化したことや補助講師を派遣していることなどです。今年度からスタートした事業にもいいものがたくさんあります。これからの施策として、小学校と中学校の垣根を低くして、小学生が中学校で学ぶことができ、中学校の先生が小学校で教えることができる仕組みを提案したいです。小中一貫校の要素を取り入れながら柔軟なシステムをつくることや、特殊な事業では学校間の壁を排除して合同で行ってみたり、他校の生徒同士が事業の中で意見を述べ合ったりできるような刺激のある授業にチャレンジしてみても面白いと思います。「裾野方式」として、売り込める仕組みを考えてみたらいかがでしょうか？
市長▶勝又さんには教育振興基本計画の検討委員として、そのような意見を発していただければありがたいことです。

当たり前のことが実は…。自信を持って「オール裾野」で発信を！

三ツ石▶先日テレビで長泉町の報道がされていて、ママさんが写真を撮ってフェイスブックやブログに投稿する事業ですね、裾野だっていろいろやっているのに、「いいな」と思って見ていました。市民協働のまちづくりの視点から、「広報すその」に投稿コーナーを作ってみてはいかがでしょうか？
根上▶母親クラブが長年続いていることが、裾野市では当たり前のことのように思われているのは、実にもったいないことだと思います。
三ツ石▶裾野では当たり前だと思われていることが、市外では案外珍しいということがありますよね。
勝又▶県外のお友だちと話すと、お隣の長泉町はすごいという話がよく出ます。裾野がすごいという話はほとんどでない。

市長▶耳の痛いお話です。独自施策の発信が足りないというご指摘がありました。私は、市職員を含め市民の皆さん一人ひとりが裾野のことをよく知り、自信を持つことが大切だと思います。売り込む側に自信がないと安くたたかれますからね。

勝又▶裾野市は外部に発信することが弱い傾向があったと思います。定住人口を増やし、市外の皆さんに注目してもらうために、独自の施策や市の魅力をアピールする姿勢が必要だと思います。先ずは、既にある地域力を利用したらどうでしょうか？深良用水や宗祇の墓所は全国でここだけにしかありません。地域のブランド力を活かし、発信しない手はないと思います。裾野しかないものに自信を持つことです。人を呼び込むために、裾野市の立地の良さ、地価の安さ、満員電車に乗らずに東京へ通勤できることの快適さ、週末は家庭菜園を楽しみ田舎から通える素晴らしさを売り込む必要があります。

三ツ石▶伊豆島田には新幹線通勤の方が多くいます。

勝又▶進学や就職で離れた方々が、また戻ってきたいと思えるような魅力のある裾野、自信を持ってＰＲできる裾野にしていきたい…。

市長▶地域を誰が担うのかといいますと、一人ひとりの力です。みんなでもってオール裾野でがんばっていきたいと思います。子育ては、親育ちであり、最終的にはまちづくりにつながっていくと思います。本日は楽しい座談会となりました。皆さんのご意見を参考にしながら、子育て先進都市を目指し、自信を持って、当市の先進的な取り組みを全国に発信していきたいと思います。本日はありがとうございました。

年頭挨拶

「子育てにやさしいまち、すその」を目指して

裾野市長　**髙村　謙二**

新年、明けましておめでとうございます。

輝かしい希望に満ちた新春を健やかにお迎えのことと、心からお慶び申し上げます。

市長に就任し、間もなく１年が経ちます。この間、各地区、団体、企業の皆様など、いろいろな方々とお会いして、お話を伺う中で、皆様がそれぞれに裾野市を良い街にしたいという思いを持っており、そういうご意見を伺えたことに大変感謝するとともに、その思いを市政に反映させる責任を痛感しております。

市内には、世界遺産富士山とその構成資産の須山浅間神社があり、県内では唯一、御師住宅の遺構もあります。また、昨年、深良用水が、歴史的、技術的、社会的価値を認められ、国際かんがい排水委員会によって創設された世界「かんがい施設遺産」として登録されました。さらに、佐野原神社からは、歌人の柳原白蓮が奉納した鈴が再発見されるなど、「裾野市」がメディアに多く取上げられました。市内には、まだまだ地域の宝や眠れる資源があります。今後なお一層、市の魅力を発信してまいりたいと考えております。

「裾野市は、通過されるだけで何もない街だ」と言う人もおりますが、私は、豊かで可能性のある街だと考えております。この街のポテンシャルを引き出し、活用し、発展させることで、皆様とともに、夢に向かって発展していく街にしてまいりたいと考えております。

そのために私は、「ひとづくり」、「豊かな産業づくり」、「快適なまちづくり」、「市民協働のまちづくり」を重点施策と位置付けており、こうした取り組みにより、「裾野市は子育てにやさしいまち」、「子育てするなら裾野」といったブランドイメージを確立してまいりたいと考えております。

企業を含めた市民の皆様と、「オールすその」で力を合わせ、知恵を出し、地域の資源を磨き、価値を高め、効果的、且つ、戦略的な情報発信により、裾野市のブランドイメージを市内外に売り込んでまいりたいと考えております。

結びに、今年一年の皆様のご健勝、ご多幸をお祈り申し上げまして、年頭の挨拶といたします。